

JILPT 資料シリーズ

No.130 2014年3月

職業相関表

—2万人のデータからみた職業の類似性—



職業相関表

－ 2万人のデータからみた職業の類似性－

まえがき

本書は職業の類似性に特化した職業データ集である。

職業を理解するということは、ひとり職業選択を迫られる求職者や就職活動中の学生のみならず、将来職業選択の場面に遭遇することになる学生・生徒にとっても、また、職業紹介担当者、進路指導担当者、教師にとっても等しく重要な課題である。職業理解を促す有効な方法のひとつは職業情報を提供することである。現在、多種多様な印刷物・出版物や視聴覚教材が提供され、インターネットを利用した情報提供も活発に行われているが、その多くは個々の職業の、他の職業と区分される独自の仕事内容や作業領域に焦点を当てた情報が中心になっている。

いずれの職業も他の職業と区別される独自性の面があると同時に、他の職業と共通する面や類似する面もある。職業理解を深めるためには、職業の独自性だけでなく他の職業との共通性や類似性に関する視点を持つことも重要である。個別職業に関する情報を次から次に探索しているだけでは、情報の大海に浮かぶ小舟のごときことになりかねないからである。職業の共通性・類似性に関する情報は、この情報の陥穽に陥らないようにするための羅針盤の役割を負っている。

職業の共通性・類似性に関する情報提供は、これまで限定的であった。その原因は、それを評価する基準としてやや専門的な変数や数値での評価の難しい変数が扱われてきたことが大きい。本書は、一般の方々にも理解しやすい3つの指標についてデータを収集し、それを個別職業に関する情報及び職業横断的な情報のふたつの形で整理・編集したものである。

しかし、データの利用にあたってはいくつかの制約がある。第一は対象職業の数である。情報収集ができた職業は408に止まり、厚生労働省編職業分類に設定された細分類項目(892項目)の半分にも満たない。第二は調査回答者数である。データの情報源は調査回答者であるが、職業によって回答者数は大きく異なる。この点はデータの信頼性に関係してくる。第三は本書の利用者である。本書は、職業の類似性や近似性に関するデータを試行的に整理したものである。職業について専門的知識を持つ者が上述のデータの制約に留意して職業ガイダンスの場で一般的な参考資料、補足情報として使用することが望ましい。

本書が、職業情報の充実に多少なりとも貢献できうるならば幸いである。

2014年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野和夫

執筆・編集担当者

にし ざわ ひろし
西 澤 弘

労働政策研究・研修機構主任研究員

目 次

第 I 部 凡例

本書の意義	1
編集方針	1
職業別の記述	1
指標別の区分	7
本書の使い方	9

第 II 部 職業別の類似性指標

大分類 B1 研究者、技術者	29
大分類 B2 専門的職業	41
大分類 C 事務の職業	65
大分類 D 販売の職業	78
大分類 E サービスの職業	89
大分類 F 保安の職業	101
大分類 G 農林漁業の職業	102
大分類 H 生産工程の職業	104
大分類 I 輸送・機械運転の職業	122
大分類 J 建設・電気工事の職業	128
大分類 K 運搬・清掃・包装等の職業	133

第 III 部 類似性指標別の職業区分

労働者機能別の職業区分	139
教育訓練別の職業区分	163
職業移動：転出先・転入元職業	185

資料

1. 調査概要	193
2. 集計対象者	195
3. 労働者機能別集計	198
4. 教育訓練別集計	202
5. 職業移動：大分類別集計	208